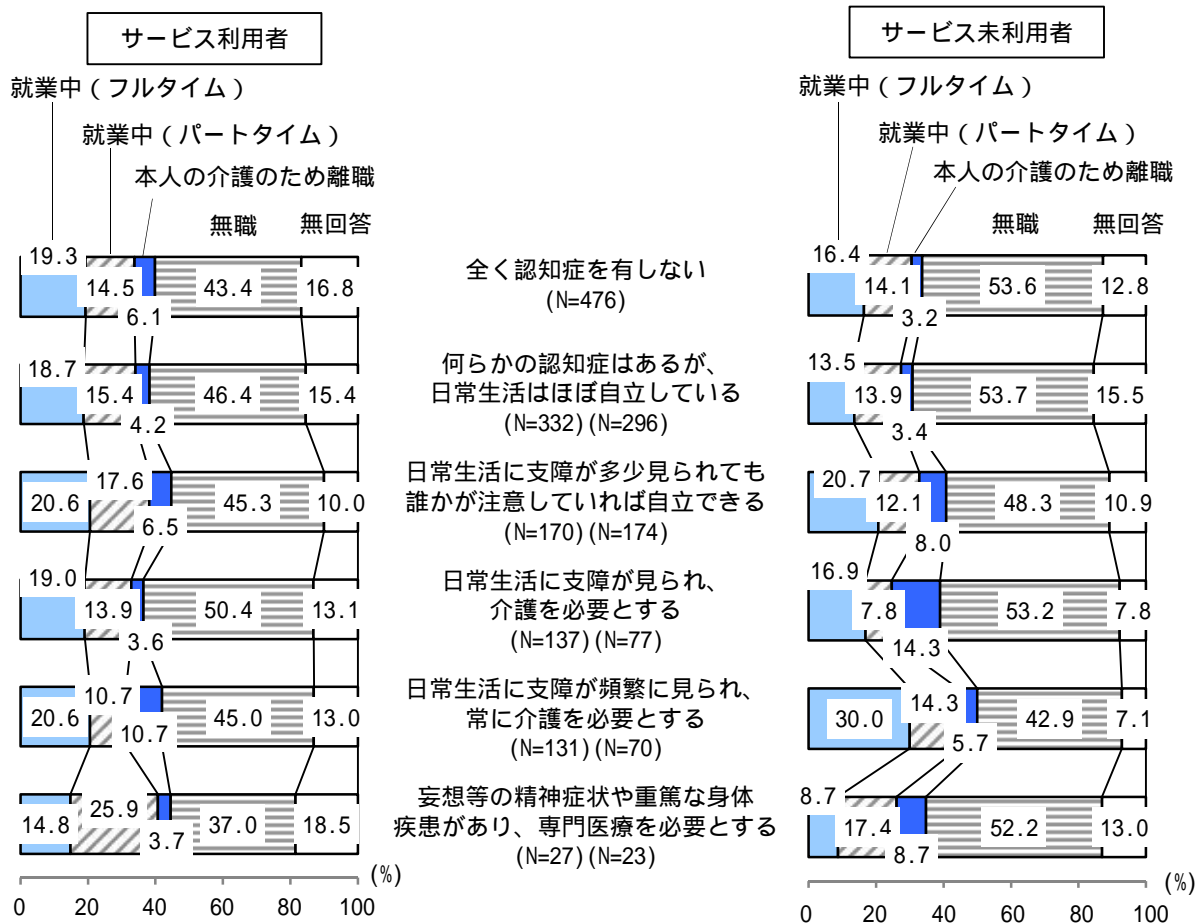


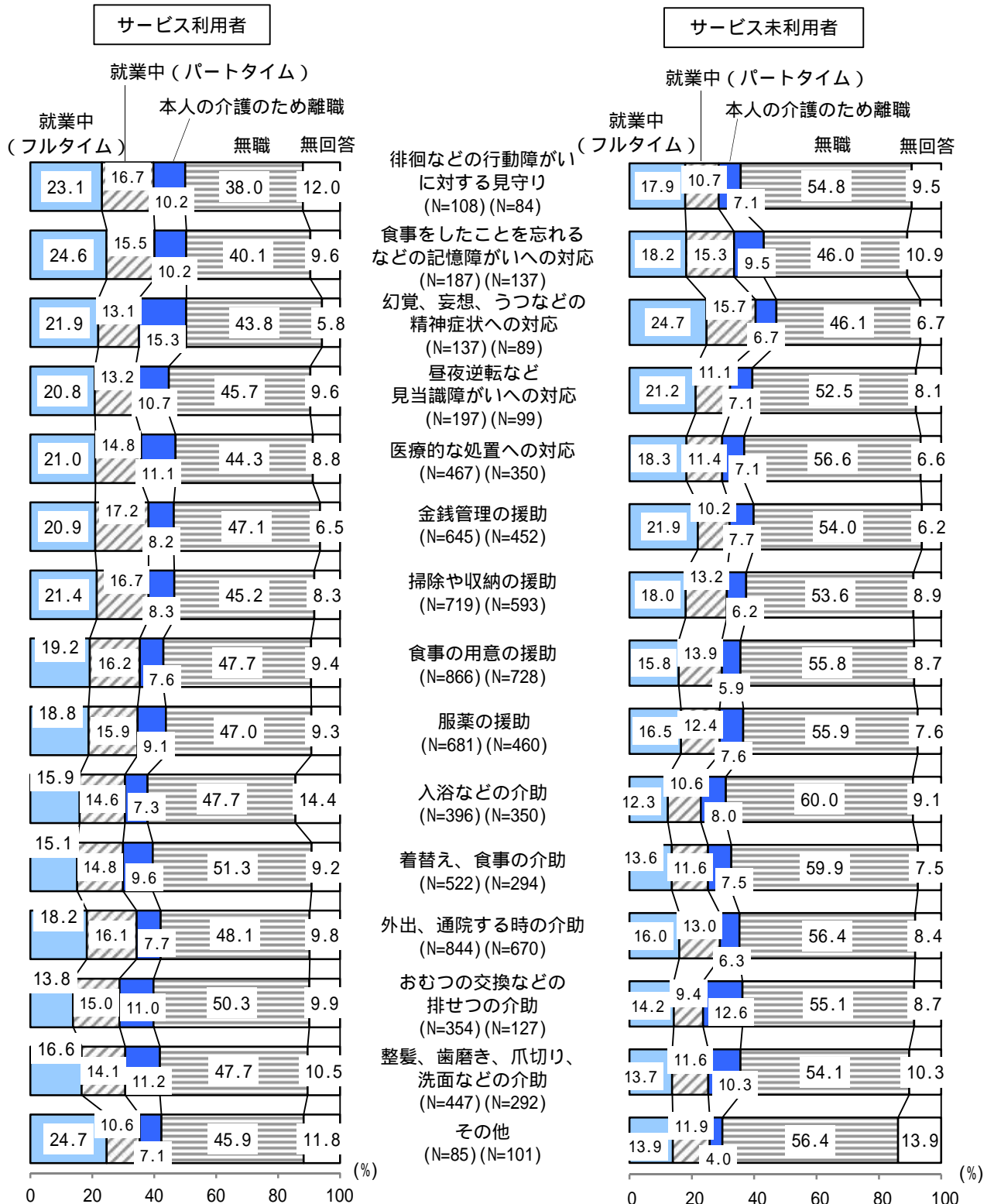
本人の認知症の程度別でみると、「本人の介護のため離職」において、サービス利用者の介護者では、“日常生活に支障が頻繁に見られ、常に介護を必要とする”における割合が10.7%で最も高く、サービス未利用者の介護者では、“日常生活に支障が見られ、介護を必要とする”における割合が14.3%で最も高くなっている。また、『就業者』割合では、サービス利用者は、“妄想等の精神症状や重篤な身体疾患があり、専門医療を必要とする”人の介護者が40.7%で最も高く、サービス未利用者は、“日常生活に支障が頻繁に見られ、常に介護を必要とする”人の介護者が44.3%で最も高くなっている。(図28(26)-j)

【図28(26)-j 介護者の就業状況(本人の認知症の程度別)】



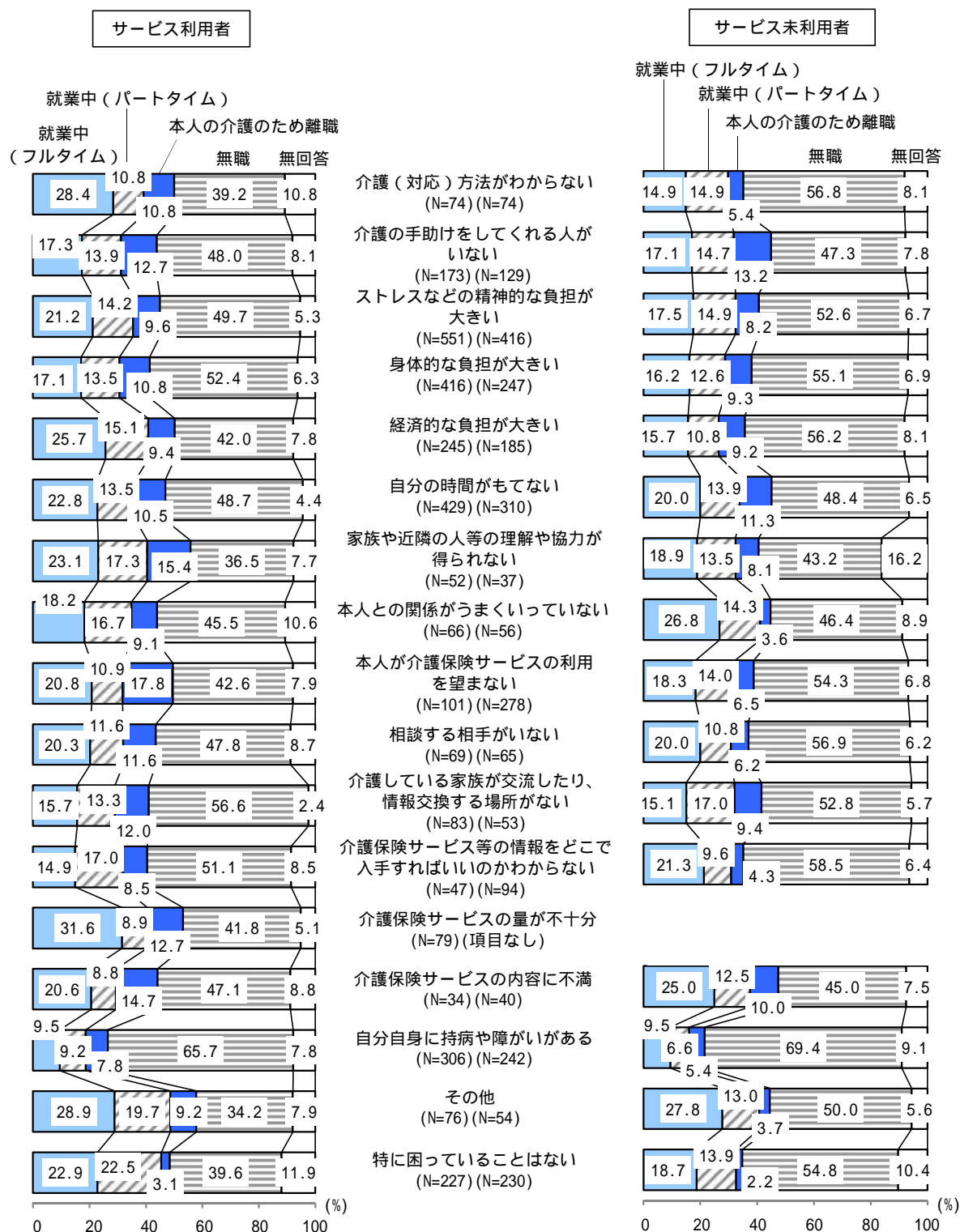
本人への介護内容別でみると、「本人の介護のため離職」において、サービス利用者の介護者では、「幻覚、妄想、うつなどの精神症状への対応」における割合が15.3%と最も高く、サービス未利用者では、「おむつの交換などの排せつの介助」における割合が12.6%で最も高くなっている。また、『就業者』割合では、サービス利用者の介護者で概ね3割台、サービス未利用者の介護者で概ね2～3割台となっており、サービス利用者では「食事をしたことを忘れるなどの記憶障がいへの対応」における割合が40.1%、サービス未利用者では「幻覚、妄想、うつなどの精神症状への対応」における割合が40.4%で最も高くなっている。(図28(26)-k)

【図28(26)-k 介護者の就業状況（本人への介護内容別）】



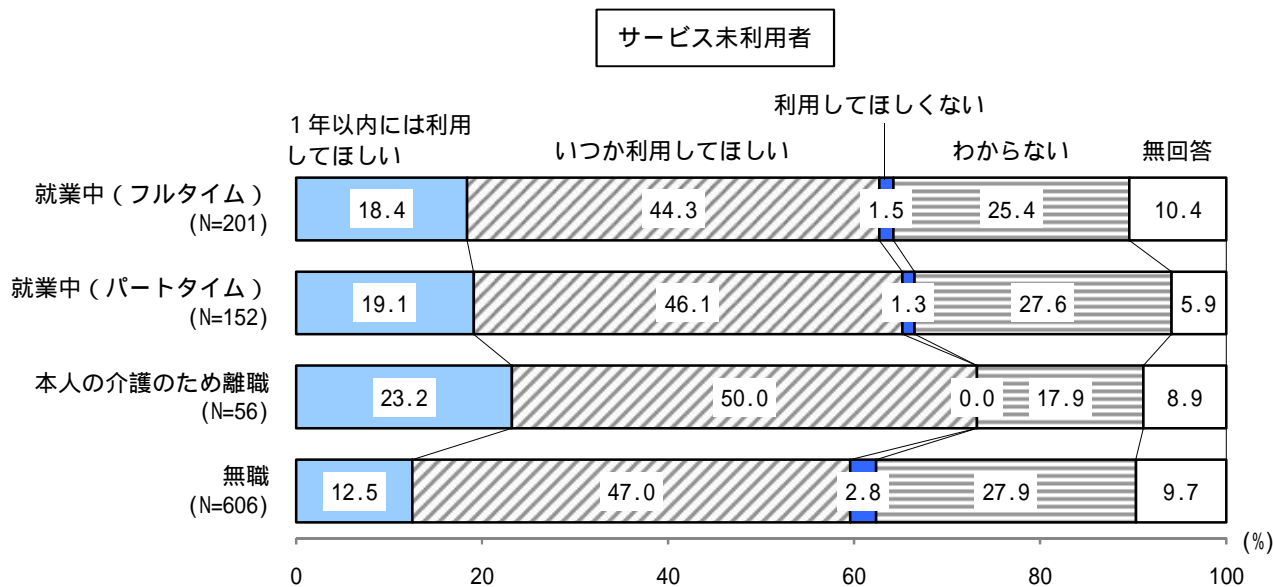
介護を行ううえで困っていること別でみると、「本人の介護のため離職」において、サービス利用者の介護者では、“本人が介護保険サービスの利用を望まない”における割合が17.8%と最も高く、サービス未利用者では、“介護を手助けしてくれる人がいない”における割合が13.2%で最も高くなっている。また、『就業者』割合では、サービス利用者・未利用者の両介護者とも概ね3割台となっており、サービス利用者では“特に困っていることはない”における割合が45.4%、サービス未利用者では“本人との関係がうまくいっていない”における割合が41.1%で最も高くなっている。(図28(26)-1)

図28(26)-1 介護者の就業状況(介護を行ううえで困っていること別)



サービス未利用者本人に対する介護保険サービスの利用希望別にみると、介護者の就業状況に関わらず“いつか利用してほしい”が4割以上を占め最も多く、“1年以内には利用してほしい”は「本人の介護のため離職」した介護者が23.2%で最も高くなっている。(図28(26)-m)

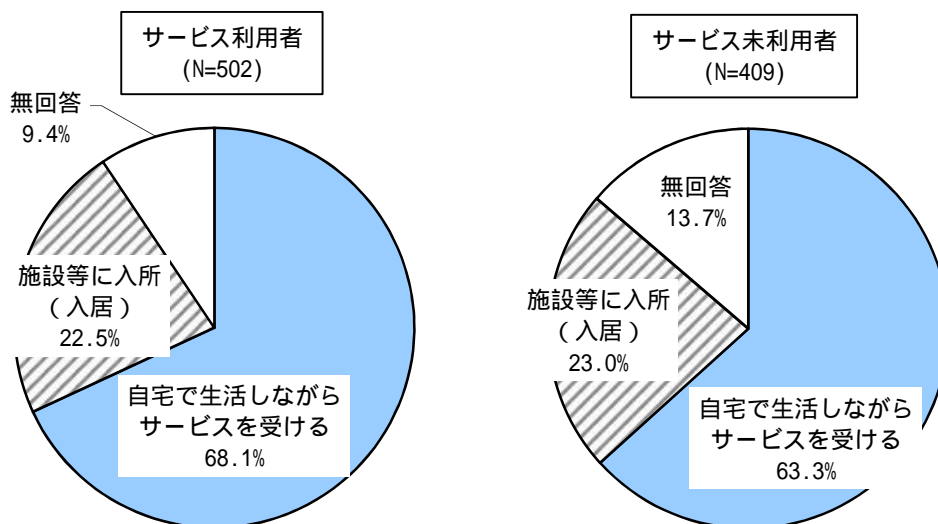
【図28(26)-m 介護者の就業状況（介護保険サービスの利用希望別）】



問29(27) 介護者が仕事を続けるために必要な介護保険サービス

【問28で「1 就業中(フルタイム)」、「2 就業中(パートタイム)」、「3 本人の介護のため離職」に つけた方のみお答えください。】
 仕事を続けていくにあたって、必要な介護保険サービスはどちらですか。(はひとつ)

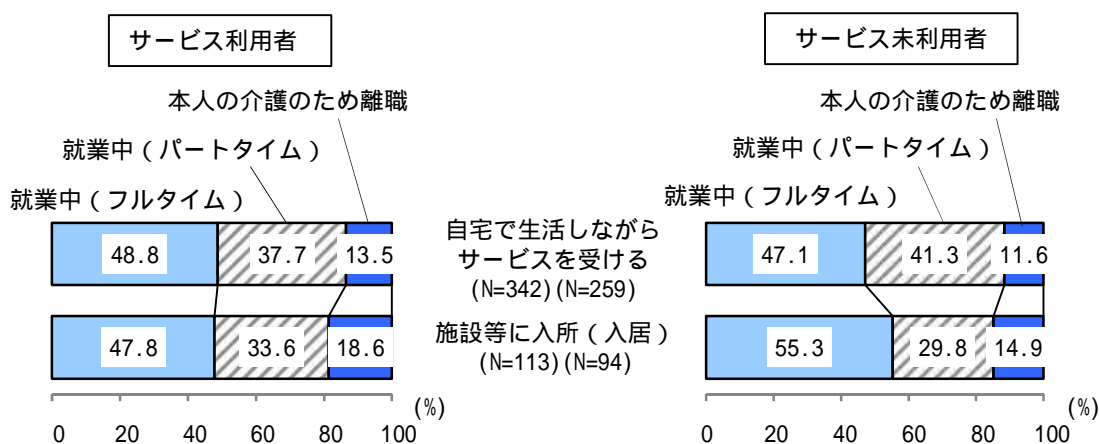
【図29(27) 介護者が仕事を続けるために必要な介護保険サービス】



就業中もしくは本人の介護のために離職した介護者が仕事を続けるために必要な介護保険サービスについては、サービス利用者・未利用者の両介護者とも「自宅で生活しながらサービスを受ける」が6割台、「施設等に入所(入居)」は2割台となっている。(図29(27))

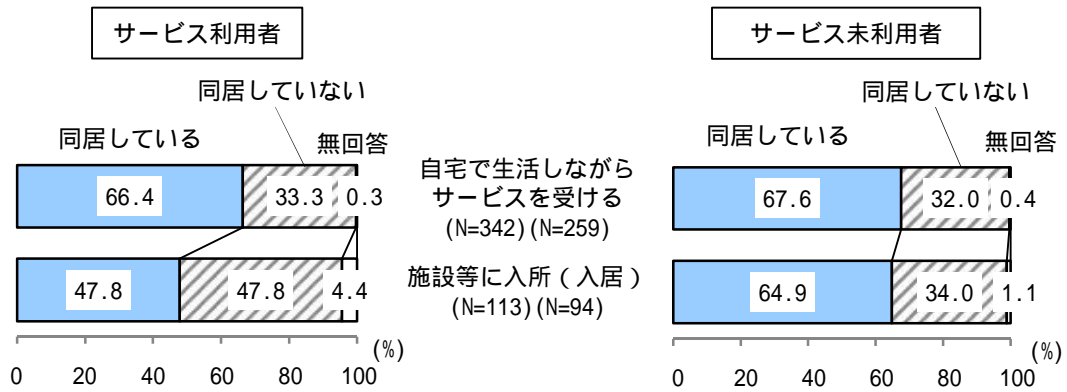
介護者の就業状況別でみると、サービス利用者・未利用者の両介護者とも“就業中(フルタイム)”が、在宅・施設のサービスに関わらず最も多くなっている。また、サービス未利用者では、施設等に入所・入居すると仕事を続けることができる介護者が“就業中(フルタイム)”で55.3%を占めている。(図29(27)-a)

【図29(27)-a 介護者が仕事を続けるために必要な介護保険サービス(介護者の就業状況別)】



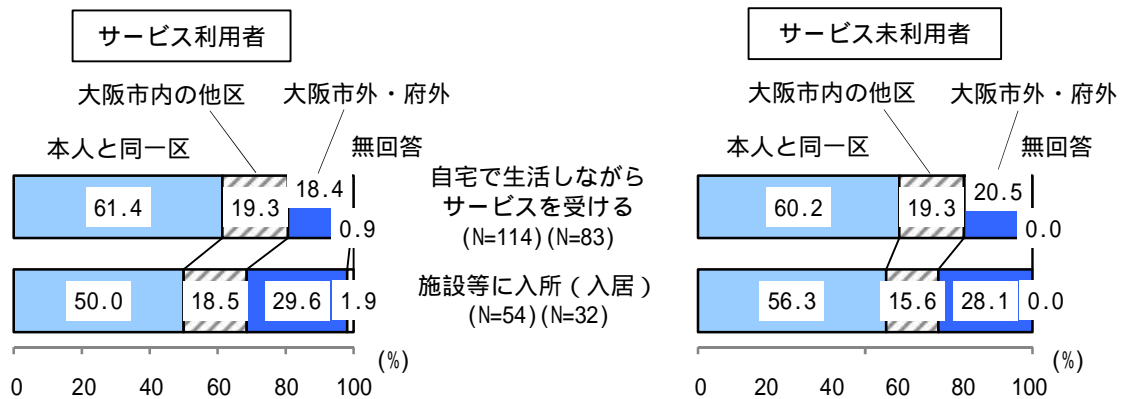
同居の有無別でみると、サービス利用者では“同居している”が、自宅で生活しながらサービスを希望する介護者で66.4%を占めているが、施設等に入所（入居）を希望する介護者は47.8%で“同居していない”と同率になっている。一方、サービス未利用者では、自宅で生活しながらサービスを受けることで仕事を続けることができる介護者・施設等に入所（入居）を希望する介護者とも“同居している”が6割台となっている。（図29(27)-b）

【図29(27)-b 介護者が仕事を続けるために必要な介護保険サービス（同居の有無別）】



同居していない介護者の居住区別でみると、サービス利用者・未利用者の両介護者とも“本人と同一区”が、在宅・施設のサービスに関わらず半数以上を占めており、自宅で生活しながらサービスを受けることで仕事を続けることができると思う介護者のほうが割合は高くなっている。（図29(27)-c）

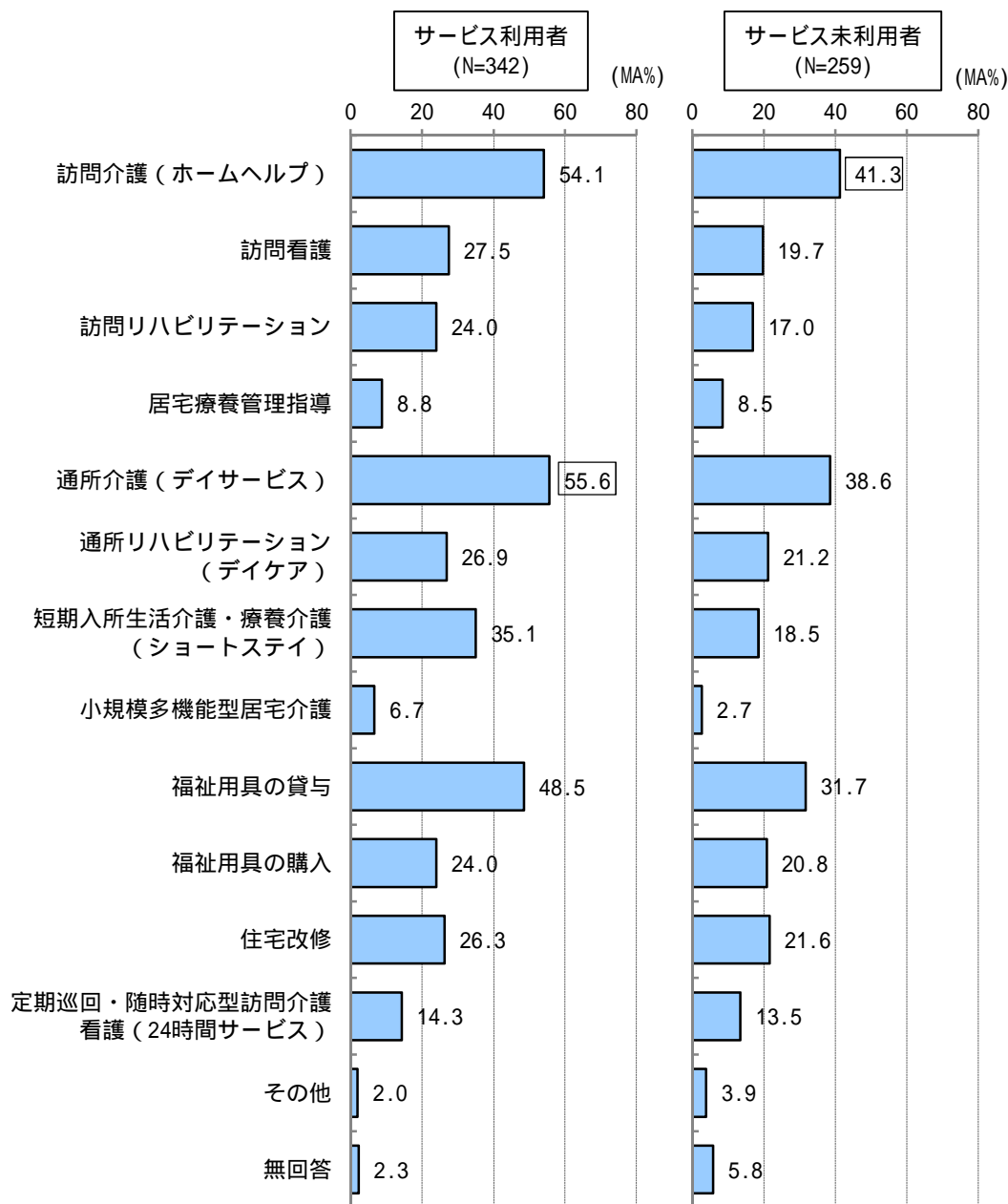
【図29(27)-c 介護者が仕事を続けるために必要な介護保険サービス（同居していない介護者の居住区別）】



問29-1(27-1) 介護者が仕事を続けるために必要な在宅の介護保険サービス

【問29で「1 自宅で生活しながらサービスを受ける」に つけた方のみお答えください。】
 具体的にどのサービスが必要ですか。(はいくつでも)

【図29-1(27-1) 介護者が仕事を続けるために必要な在宅の介護保険サービス】

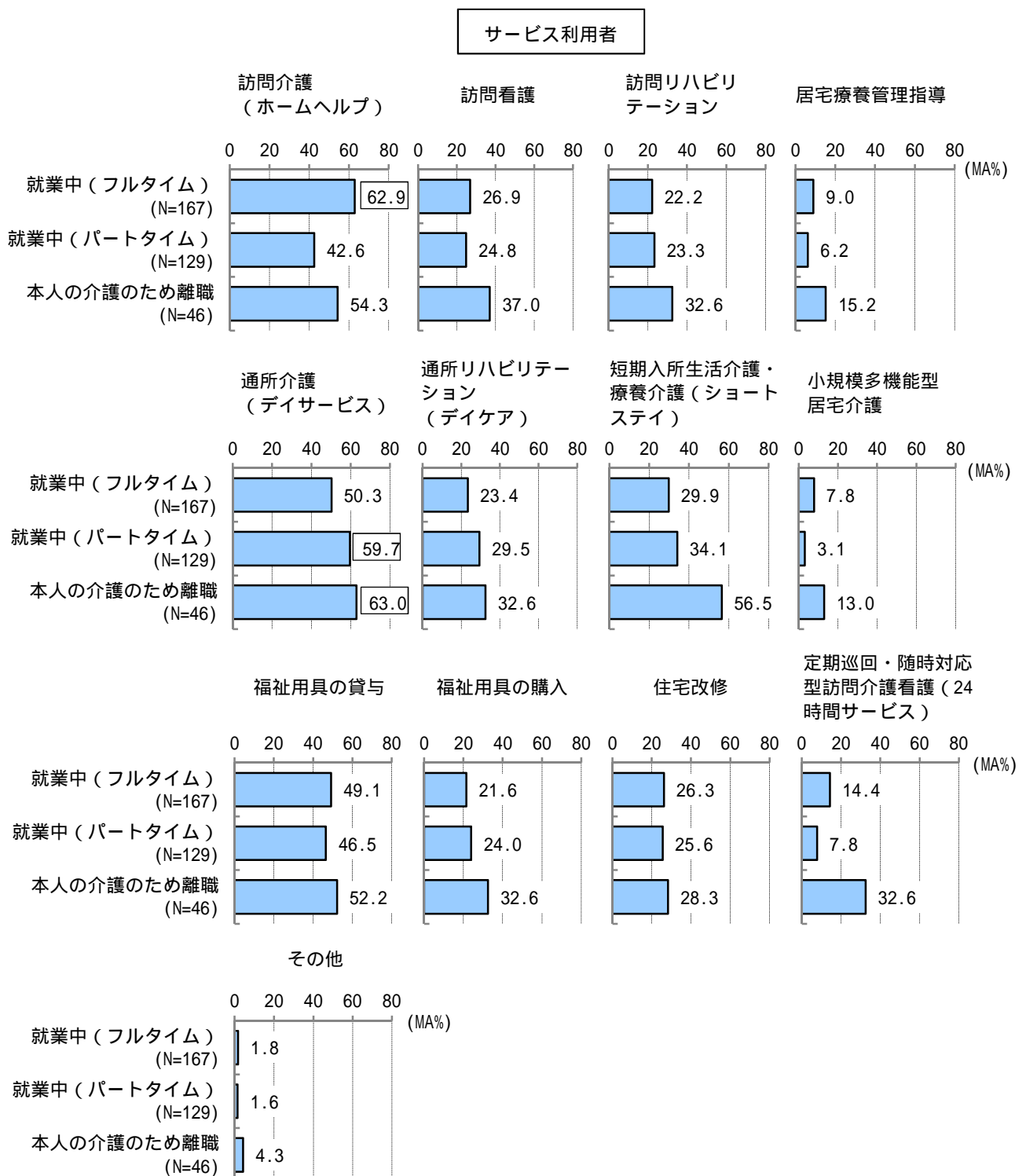


仕事を続けるために必要な在宅サービスのサービス内容については、サービス利用者の介護者は「通所介護(デイサービス)」が55.6%で最も多く、次いで「訪問介護(ホームヘルプ)」が54.1%、「福祉用具の貸与」が48.5%となっている。一方、サービス未利用者の介護者では「訪問介護(ホームヘルプ)」が41.3%で最も多く、次いで「通所介護(デイサービス)」が38.6%、「福祉用具の貸与」が31.7%となっている。(図29-1(27-1))

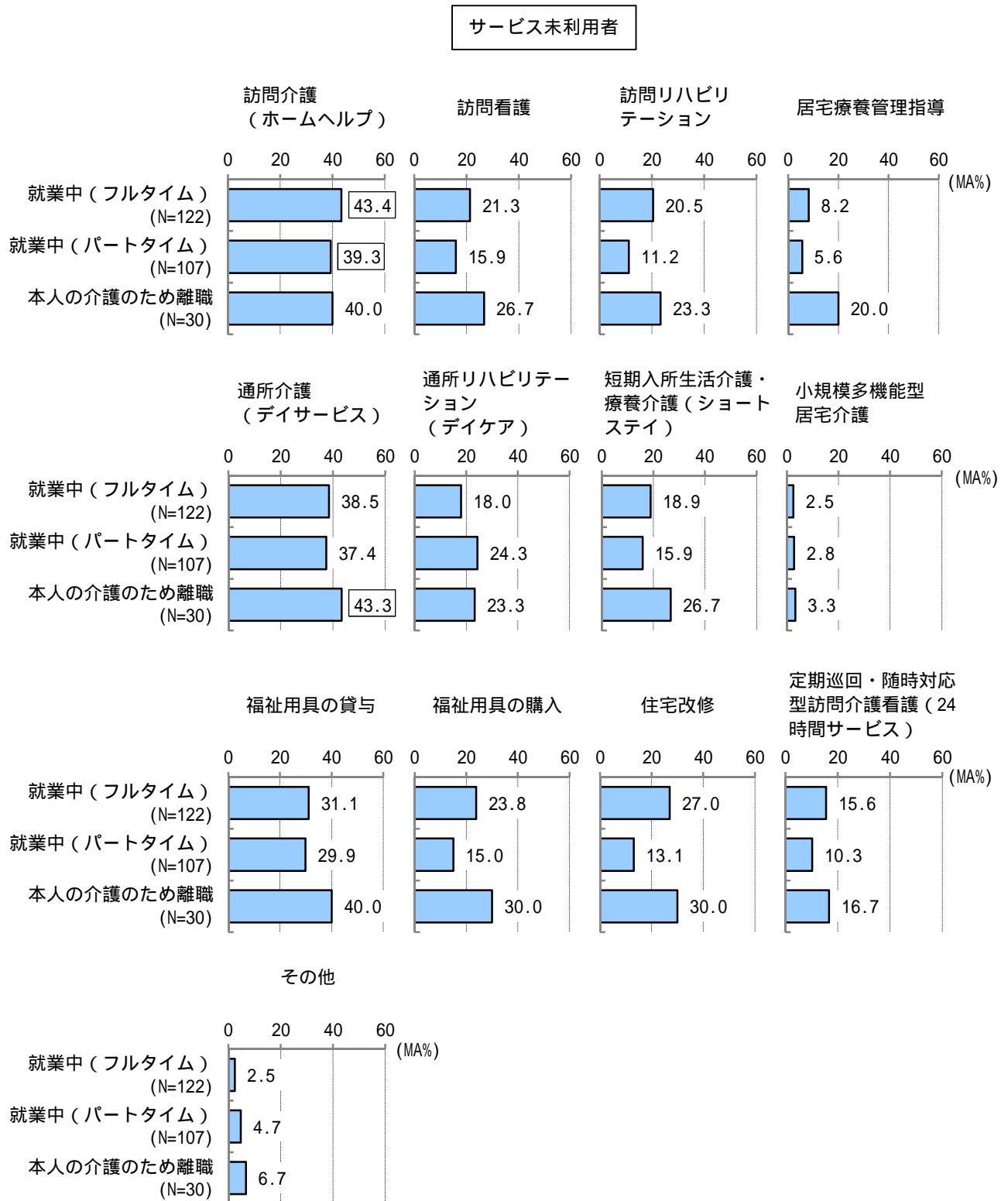
介護者の就業状況別でみると、サービス利用者は“就業中(フルタイム)”では「訪問介護(ホームヘルプ)」が62.9%で最も多く、“就業中(フルタイム)”、“本人の介護のため離職”では「通所介護(デイサービス)」が最も多く、“就業中(パートタイム)”が59.7%、“本人の介護のため離職”が63.0%となっている。(図29-1(27-1)-a)

サービス未利用者では、“就業中(フルタイム)”、“就業中(パートタイム)”では「訪問介護(ホームヘルプ)」が最も多く、“就業中(フルタイム)”が43.4%、“就業中(パートタイム)”が39.3%となっている。“本人の介護のため離職”では「通所介護(デイサービス)」が最も多く、43.3%となっている。(図29-1(27-1)-a)

【図29-1(27-1)-a 介護者が仕事を続けるために必要な在宅の介護保険サービス(介護者の就業状況別)】



【図29-1(27-1)-a 介護者が仕事を続けるために必要な在宅の介護保険サービス(介護者の就業状況別)】



要介護度別で見ると、サービス利用者では、要支援1・2と要介護3は「訪問介護（ホームヘルプ）」、要介護1・2は「通所介護（デイサービス）」、要介護4・5では「福祉用具の貸与」が、それぞれ最も多くなっている。一方、サービス未利用者では、要支援1・2と要介護2は「訪問介護（ホームヘルプ）」、要介護1と要介護4は「通所介護（デイサービス）」、要介護3は「福祉用具の貸与」が、それぞれ最も多く、要介護5では「福祉用具の貸与」と「福祉用具の購入」が同率で最も多くなっている。（表29-1(27-1)-b）

【表29-1(27-1)-b 介護者が仕事を続けるために必要な在宅の介護保険サービス（要介護度別）】

		N														(MA%)	
			訪問介護（ホームヘルプ）	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護（デイサービス）	通所リハビリテーション（デイケア）	短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）	小規模多機能型居宅介護	福祉用具の貸与	福祉用具の購入	住宅改修	定期巡回・随時対応型訪問介護看護（24時間サービス）	その他	無回答	
サービス利用者	要支援1	31	64.5	16.1	9.7	3.2	41.9	12.9	19.4	6.5	38.7	9.7	16.1	6.5	3.2	3.2	
	要支援2	49	57.1	22.4	20.4	6.1	53.1	26.5	16.3	2.0	40.8	16.3	30.6	8.2	0.0	2.0	
	要介護1	58	46.6	19.0	10.3	3.4	72.4	27.6	32.8	8.6	32.8	17.2	19.0	1.7	0.0	1.7	
	要介護2	68	54.4	23.5	22.1	7.4	60.3	29.4	30.9	4.4	55.9	26.5	27.9	8.8	1.5	1.5	
	要介護3	42	59.5	28.6	28.6	7.1	47.6	19.0	35.7	14.3	47.6	28.6	31.0	19.0	0.0	2.4	
	要介護4	44	45.5	40.9	34.1	6.8	45.5	27.3	52.3	4.5	59.1	25.0	20.5	29.5	0.0	2.3	
	要介護5	45	60.0	46.7	44.4	26.7	55.6	35.6	60.0	8.9	64.4	42.2	35.6	33.3	11.1	4.4	
	わからない	3	33.3	0.0	33.3	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	
サービス未利用者	要支援1	51	43.1	21.6	11.8	13.7	29.4	11.8	19.6	2.0	29.4	13.7	15.7	11.8	7.8	7.8	
	要支援2	53	39.6	13.2	17.0	1.9	30.2	20.8	9.4	0.0	26.4	26.4	18.9	7.5	3.8	3.8	
	要介護1	54	38.9	18.5	11.1	7.4	55.6	27.8	16.7	1.9	22.2	11.1	16.7	20.4	0.0	5.6	
	要介護2	45	40.0	15.6	15.6	8.9	26.7	15.6	20.0	4.4	31.1	24.4	22.2	15.6	2.2	8.9	
	要介護3	22	45.5	13.6	13.6	4.5	50.0	27.3	31.8	0.0	54.5	22.7	27.3	0.0	4.5	0.0	
	要介護4	10	50.0	40.0	50.0	20.0	60.0	30.0	30.0	10.0	50.0	40.0	30.0	10.0	10.0	0.0	
	要介護5	5	20.0	60.0	40.0	20.0	20.0	60.0	40.0	20.0	80.0	80.0	60.0	60.0	0.0	0.0	
	わからない	12	58.3	41.7	41.7	16.7	50.0	25.0	25.0	8.3	50.0	25.0	50.0	16.7	8.3	8.3	

サービス利用者で、現在利用している在宅の介護保険サービス別でみると、同じサービスを希望する介護者は、「訪問介護（ホームヘルプ）」や「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」、「通所介護（デイサービス）」、「通所リハビリテーション（デイケア）」、「短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）」、「福祉用具の貸与」を利用している人で最も多くなっている。（図29-1(27-1)-c）

【図29-1(27-1)-c 介護者が仕事を続けるために必要な在宅の介護保険サービス（現在利用している在宅の介護保険サービス別）】

